

CristalDiskInfo

JJ1SXA/池

私の現用のPCは、Win7から段階的にバージョンアップを繰り返しての、32ビットのWin10だ、Win11へのアップバージョンの要件にはとても満たない高齢マシン、2025年10月14日でサポートが切れるが、それよりも、何よりも、何時パタッと止まるかわからない代物、予兆だけは早期に把握しようと、無料のソフト「CristalDiskInfo」を窓の杜からダウンロードして利用している。

このソフトは、ローカルのHDDやSSDの健康状態などを監視できるソフトで、型番や容量、バッファサイズといった基本情報に加えて、電源投入回数や使用時間、温度などのS.M.A.R.T.情報を一覧で確認することが可能、特に、「正常」、「注意」、「異常」の3段階で評価した健康状態と、現在の温度は大きな文字で別途表示されるため、ドライブを交換する時期の参考になる、タスクトレイに常駐する機能を搭載しており、各ドライブの温度をタスクトレイアイコンとして表示すると同時に、各ドライブの温度がしきい値を超えた場合や、健康状態に変化があった時に、警告をポップアップ表示してくれるようだ。

ここで出てきた、S.M.A.R.T.情報(スマート情報)とは「Self Monitoring, Analysis and Reporting Technology System」のことで、HDDの障害や故障の早期発見・予測をするための「自己診断システム」ということだ。

後は、ベンチマークテストだ、実行すると、CPU、GPU、SSD、HDD、RAM、バッテリーなどのハードウェアコンポーネントのパフォーマンス(速度)を分析することができ、さらに、不良セクター、CPUファンエラー、CPU過熱、バッテリー充電できないなど、ハードウェア関連の問題を診断することにも役立つということだ。

本格的には、色々な無料ソフトがありますが、私の使っているのは、Windows組み込みツールの「パフォーマンスモニター」で、「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックス(Win+Rで出てくる)に、「perfmon /report」と入力して「Enter」キーを押せば実行できる、その後、「診断結果」セクションをクリックすると、「エラー」「警告」「メッセージ」「基本的なシステムチェック」を含むテスト結果が表示されます。

ベンチマークという単語はもともと測量に用いられていた言葉で「基準」を指し示す際に使用されていて、そこから「性能や能力を測定するための指標」の用語として用いられるようになったようです。

パソコンでのベンチマークはパソコンに一定の負荷をかけることでパソコンの性能を計測することを言い、パソコンの使用目的に合わせた種類の負荷によって、パソコンの性能が目的を達成できる能力があるかどうかを計測していくことがベンチマークの主な目的のようで、具体的なパソコンのベンチマークの例としては「パソコンの処理能力」「パソコンでの特定の作業の速さ」「パソコンでプレイするゲームの快適性」などがあるようで、パソコンのベンチマークを実行する専門のソフトが「ベンチマークソフト」と呼ばれています。

パソコンの性能を測るベンチマークには以下のような種類があります、「パソコン全体の性能」、「パソコンのCPUの性能」、「パソコンのグラフィックボードの性能」、「パソコン自体のストレージ」、「外付けストレージ」、「ゲームタイトルにおけるプレイの快適性」、「パソコンで実施する処理などの速さ」等々。
(2024年1月記)